

⑫ 実用新案公報 (Y2)

昭60-25970

⑬ Int. Cl.⁴

A 47 J 41/02

識別記号

104

庁内整理番号

B-6712-4B

⑭ 公告 昭和60年(1985)8月5日

(全3頁)

⑮ 考案の名称 液体容器の蓋のロック装置

⑯ 実 願 昭55-141026

⑰ 公 開 昭57-64240

⑱ 出 願 昭55(1980)10月1日

⑲ 昭57(1982)4月16日

⑳ 考 案 者 竹 田 照 男 門真市速見町1033番地 タイガー魔法瓶工業株式会社内
㉑ 考 案 者 坂 野 弘 幸 東海市荒尾町片坂八番地 株式会社大洋プラスチック工業所内
㉒ 出 願 人 タイガー魔法瓶株式会社 大阪市城東区蒲生2丁目1番9号
㉓ 代 理 人 弁理士 玉利 富二郎
㉔ 審 査 官 小 沢 誠 次
㉕ 参 考 文 献 実開 昭50-48260 (JP, U)

1

⑳ 実用新案登録請求の範囲

嘴部を有する蓋体を、液体容器本体の上部に弧
回動自在に枢着し、前記嘴部内にはロック部材を
設ける一方、液体容器本体の嘴部には係合受部を
設け、ロック部材と係合受部の何れか一方には係
合部を他方には被係合部を設け、係合部を被係合
部に係合させて液体容器本体の上部開口を閉蓋す
るようにした液体容器の蓋ロック装置であつて、
前記被係合部には少なくとも嘴部の長手中心線側
に規制片が垂設してあることを特徴とする液体容
器の蓋ロック装置。

考案の詳細な説明

この考案は魔法瓶などの液体容器の蓋を液体容
器本体上部に被蓋しロックする装置に関する。

従来、この種のロック装置としては、本願出願
人の出願に係る実開昭50-48260号公報記載のも
のが知られてる。

このものは、一端を魔法瓶本体の上部に弧回動
自在に枢着した蓋体の上部嘴部内に、爪片からな
る係合部を設けると共に、魔法瓶本体には前記係
合部を係合する係止片からなる被係合部を設けて
なるが、この場合の被係合部は中央に切欠部を形
成したフランジであつて、両者の係合時において
係合部の横移動を阻止する規制部材は形成されて
いないものである。

2.

従つて、このものでは、前記係合部と被係合部
とによるロック力は、上下(弧回動)方向はとも
かく、横方向やねじれ方向に対しては弱く、例え
ば不用意に魔法瓶本体が転倒したときなどに、突
出した嘴部に横方向からの衝撃が加わることは避
けられず、そのため、ロック部材の係合部が被係
合部の注出管側方向から外れて内容液が漏出する
虞れがあると共に、内容液が熱湯のときには火傷
を負うなどの不都合があつた。また、前記の如く
ロック部材の係合部が係合受部より外されることが
ない場合でも、横またはねじれ方向からの外力
により、そのロック部分がガタつく欠点があり、
そのため使用者に安全性に対して危惧感を抱かせ
ていた。

この考案は上記不都合や欠点を解消しようとする
ものであつて、前記被係合部には係合部の係合
時に、同係合部が少なくとも嘴部の長手中心線側
へ移動するのを阻止する規制片を形成することに
より、ロック部材とその係合受部とを強固にロッ
クさせ、該ロック部分が弧回動方向だけでなく横
及びねじれ方向の外力に対しても不用意に外れる
ことがないようにすると共に、ガタつきをなく
し、安全性の高い液体容器の蓋ロック装置を提供
することを目的とする。

25 この考案の第1実施例を第1図乃至第3図に基

3

4

づいて説明すれば、1は所謂空気圧送式ポットと称される液体容器であつて、これは蓋体2に装着したペローズポンプ3を押圧板4で押圧駆動して、その圧縮空気を液体容器本体5内に装着した中瓶内に送り、中瓶内の内容液を汲み上げて、下部嘴部6まで延出した注出管8を経て注出口9より注出するようにしてある。前記蓋体2の一端には蝶番10を設け、この蝶番10を液体容器本体5上部に形成した蝶番受部11に枢着し、蓋体2が弧回動自在に開閉されるようにしてある。そして、蓋体2の他端の上部嘴部7内には、蓋体2を閉塞位置にロックさせるロック部材12を設けてあり、該ロック部材12は上部嘴部7に横設したピン13に巻装したバネ14を介して、そのロック部材12の操作部12aが常時外部へ突出するように付勢してある。前記ロック部材12の下端部には、内向きの爪状係合部16が形成されている。

一方、液体容器本体5の下部嘴部6には、前記ロック部材12に対向した位置に下部嘴部6とは別部材からなる係合受部15が設けてある。この係合受部15は、下部嘴部6の長さ方向の中心線側（注出管8側）に垂設し、かつ係合部の係合時に同係合部の横移動を阻止する規制片17と、該規制片17の上端部に一体的に横設した水平片部とで一状となし、その規制片17と水平片部18とで被係合部19を形成してある。そして、蓋体2を閉方向に回動すると、前記ロック部材12の係合部16は係合受部15の被係合部19に係合されて蓋体2を閉じるようにしてなるものである。ロックを解除する場合には操作部12aを押圧する。

この実施例の規制片17は、ロック部材12の係合部16に係合した時に、該係合部16が第3図示の矢印方向に圧縮する習性をもつように設計する。

なお、係合受部15の規制片17は、実施例では片側だけに設けたが、両側に設けてU状に形成すれば、ロック部材12の係合部16に係合した場合に、左右両方向の揺動に対して外れたり、ガタつくことがない。また、係合部16の向きを、実施例では液体容器本体開口中心側へ向けているが、液体容器本体の外方を臨むように向きを変えることもできる。

第4図は第2実施例を示すものであつて、前記実施例のロック部材12の係合部16と同様の爪状の屈曲部20の上面に水平方向の突条からなる係合部21を形成する一方、下部嘴部6内には同下部嘴部6とは別体であつて、断面が略4分の1円状の係合受部22を設けると共に、該係合受部22の底部には前記係合部21に係入される溝状の被係合部23を形成し、さらに被係合部23の側壁には規制片23aを形成してある。また、屈曲部20の底面と、該底面と対向する係合受部22の上面とはそれぞれ彎曲させてあり、係合受部22の上面に係合部21の底面が円滑に摺接した被係合部23に係合部21に係入し易いようにしてある。

第5図は第3実施例を示すもので、第4図の屈曲部20の係合部21の代りに小突起からなる係合部24を突設すると共に、係合受部22の底部には係合部24に係合用の被係合部25を形成し、この被係合部25は前述の如く係合部24の横移動を阻止する規制片も兼ねているものである。

なお、第4図と第5図において、係合部21、24に係合受部22に形成し、この係合部が係入する規制片付きの被係合部23、25をロック部材12の屈曲部20に設けることもできる。

なお、ロック部材、係合部、係合受部、被係合部、並びに規制片は前述の形状に限定されず適宜設計変更できる。また規制片は被係合部と一体に形成されているのが好適であるが、別体でも実施できる。

この考案は、以上の通りの構成からなるもので、係合受部とロック部材の何れか一方に設けた被係合部には、少なくとも嘴部の長手中心線側に規制片を垂設しているから、例えば、不用意に液体容器本体が転倒したときなどに、突出した嘴部に横またはねじれ方向の衝撃が加わつても、前記係合部が被係合部の横またはねじれ方向から外れることもなく、また上下方向はもちろんのこと横またはねじれ方向の外方により、そのロック部分がガタつくなどの虞れもない。

従つて、係合部が被係合部より、上下方向だけでなく横またはねじれ方向からも外れることもないため、そのロック部分の外れに起因する内容液の漏出を防止でき、その熱湯による火傷を防ぐことができる。また、上述の如くロック部材のガタ

5

6

つきも防止できるため、使用者が使用する上で安心して使える。

図面の簡単な説明

図は何れもこの考案の実施例を示すものであり、第1図は要部切欠断面図、第2図は要部の分解斜視図、第3図は第2図でロック部材と係合受部とを係合した場合の右側面図、第4図と第5図

は夫々他の実施例の要部分解斜視図である。

2……蓋体、5……液体容器本体、7……上部嘴部、8……注出管、12……ロック部材、15, 22……係合受部、16, 21, 24……係合部、19, 23, 25……被係合部、17, 23a……規制片。

